

驕りときぎずな軋

新しい南丹市に向けて

南丹市長 佐々木稔納

先の市長選挙において、四月三十日就任した佐々木稔納新市長は、六月六日開会の定例議会の冒頭、南丹市のまちづくりに向けた所信の一端を表明しました。その要旨を紹介します。

南丹市が発足いたしました六カ月が過ぎましたが、私は、一日も早い市政の安定をめざし、市政への市民の信頼回復から取り組みます。そのためには市職員が一丸となり、徹底した住民サービスを提供できる体制にし、「市役所に来たら何とかなる」と市民の皆さまに信頼される組織づくりに努めます。何より地域の一体感を早期に醸成させることにより、「誇りときぎずなを大切に」みんなで創る「新しい南丹市」の実現に向け、皆さまと手を携えて全力を傾注する決意であります。

特に今、地域経済の活性化、効率的な行政運営による市民満足度を高めるための行政改革、市民の税金を「血税」と再認識し、一円まで活かすための基盤強化と財政改革を行うこととあります。

そこで私は、合併時にまとめられた「新市建設計画」を基盤として、今後次のような事柄を市政の柱に据えて取り組みます。

南丹市の美しい自然や伝統・文化はふるさとへの誇りです。自然・伝統・文化の調和の取れたまちづくり

私は、市民の皆さまが「合併をして良かった」と感じていただけるまちづくりに取り組みます。

旧四町の豊かな自然や伝統文化の上に築かれた、特色あるまちづくりや村づくりは、旧町民の皆さまが力を合わせて推進されてきました。

南丹市には多様な機能や可能性を秘めた魅力的な素材が多く蓄積されています。既存の観光資源に加えて、都市との交流や新たな資源を生かして交流人口を増加させ、観光をはじめ、各種の産業振興を図る施策の推進が必要であり、合併効果が遺憾なく発揮できるよう取り組みます。

市民活動を積極的に支援し、きずなを通わせ市民の皆さまとともに歩む市政、開かれた市政をどうやって推進していくのか。そのためには、広報誌の拡充により、市役所で何をやっているのかを市民に知らせるなど、市民主権の視念に立つて情報を公開していく広報活動を強化します。また、インターネット、CATV等高度情報通信網の拡充を図り、

併せて市民の皆さまのご意見をインターネットでもお受けできるようにホームページの整備も進め、ご意見を拝聴する機会を増やしていきます。

特に、声が届きにくかった女性の皆さま、子育て真っ最中の方、若い方たちの考え方をなどを十分にお伺いをするシステムの構築を図ります。

JR複線化・道路整備・情報網の整備等、ひと・まちをつなぐ大切なネットワークの整備により、新たなきずなを結び、地域経済社会を発展

平成二十年度に、京都・園部間のJR複線化の完成が予定されており、八木、吉富駅の周辺整備を進めることにより、住宅の建設が進み、南丹市は、人口増に向かつていくものと期待しております。

あわせて「京都新光悦村」に進出いただく企業や八木町内におけるシャトーの拡張や「虎屋」を始め、新規企業の誘致等によって雇用の創出が図られ地域社会、経済にとつ